

秋-7 だれか助けて

1. 活動の目的

- ①救急車の利用の仕方を知る。
- ②ひったくりなどのトラブルにあわないよう、防犯意識を高める。
- ③トラブルにあった時に、助けが求められるようにする。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆自動販売機の写真 (住所表示) /道路標識写真 (住所表示番号シール)
- ・防犯グッズ (ひったくり防止ネットなどあれば)

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

- ・急な病気やけがの場合に、学習者それぞれの、病院までの移動手段を話す。
- ・学習者の国で救急車のシステムがどのようになっているか、また利用した経験があるかを聞き、日本の場合と利用の仕方に違いがないか話し合う。

活動2

- ・自宅でけが人が出た際に、電話で救急車を呼ぶ練習をする。この練習ではまず、けが人が出たことと、自宅の住所が言えることを目標にする。

発 余裕があれば、実際の通報に近い練習をする。

けがや病気の状態を伝える

例：年齢・性別・どんなけがか・今の状態は？

- ・救急車が来るまで何をすればいいか聞く
- ・外出先では場所の説明に苦勞することが多い。まずは、近くにいる日本人に助けを求める。

自販機の写真
道路標識写真

参 自分で通報する場合は、近くにどんな建物があるか、漢字で書かれた住所表示が読めるなら、町中に番地が書かれていることを知っておくとよい。

また、自動販売機 (住所表示) や道路標識柱 (番号が書いてあるシール上3ケタ、下5ケタ) にも表示がある。道路標識の番号シールは漢字が読めなくても正確な位置を伝えることができる。

参 外国人が通報してうまく伝えられない場合は、近くにいる日本人に代わるよう指示される場合がある。

活動3

防犯グッズ

- ・今までに怖い目にあったことがないか聞いてみる。日本に限らず、国での経験を話してもらってもよい。
- ・犯罪に巻き込まれないように、気をつけていることがあるか聞いてみる。
例：夜道は一人で歩かない。下着は外に干さない。など
- ・ひったくりの被害にあわないようにするためにはどんな注意をすればいいか話し合う。

絵の意味：

自転車につけるひったくり防止カバー/かばんをたすき掛けに持つ/歩きスマホをしない/街灯のある明るい道を選ぶ（午後6時以降が危険）

- ・学習者の国ではどんな対策をしているか聞いてみる。
- ・鍵の重要性を確認してもらおう。自転車をちょっと止める間や玄関前に止めたときにも鍵は必要。自転車については、警察から2重ロックが推奨されている。
- ・オートロックのマンションでも、油断していると泥棒に入られることがある。数分のごみ捨てやうちにいる場合でもかけたほうが安心なことを話す。
- ・万一事件にあってしまった場合は、どうやって助けを求めるか話し合う。うちの近くや、通勤（通学）経路に交番があるか、場所を確認する。

参 外出している際に危険を感じたら、交番に逃げ込むだけでなく、店や民家にも助けを求められることを知る。「こども110番の家」の表示を確認しておく。

活動4

- ・練習の最後には少し大きめの声を出して助けを求める練習をする。

留 声を出す場合は、周りに気をつけて迷惑をかけないように練習する。

参 警察への110番通報は携帯電話からもできる。
もし、携帯電話がなくても公衆電話から無料でかけられる。

発 よくできる学習者の場合は、110番通報の仕方を練習してみるとよい。

110番の会話

- ・事故ですか。事件ですか。
- ・何がありましたか。
- ・どこですか。
- ・いつですか。（時間は？）
- ・だれが？
- ・どうなりましたか。